

<全体分析>

試験時間 2科目で120分

解答形式

問形式、空欄補充

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

すべての出題が平易な問題になった。

毎年、原子分野を含めた全分野から出題される。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	問形式	エネルギー保存 運動量保存	物理	斜面を滑り降りる物体の運動。2物体の衝突。 計算がやや複雑なので、計算ミスのないよう気をつけたい。	やや易
2	問形式	コンデンサーの 接続	物理	コンデンサーの接続。設定を把握するのがやや難しいので、ケアレスミスをしないように気をつけよう。	やや易
3	問形式	ドップラー効果、 光ファイバー	物理	音源が円運動をするドップラー効果。光ファイバーの典型問題。使用する文字によって正解が複数考えられる。	易
4	問形式 空欄補充	気体の分子運動論、 光電効果、 放射性崩壊	物理	気体の分子運動論、光電効果、放射性元素の崩壊。 問題文に単位があつたりなかったりと戸惑う。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

学習対策としては、すべての分野を万遍なく仕上げるのが大事になる。そのためにも基本的な問題集をしっかり仕上げたい。

今年も数値を計算する問題が多数出題されたので計算力をしっかりつけておくことが求められる。ただし、内容はよく見かける設定の問題が多いので、慌てずに落ち着いて対応したい。

ここ数年は出題される問題の難易度がやさしめで安定していたが、今年はさらに易化した。